

PVAS (Pruritus Visual Analog Scale) - 痒み評価スケール

PVASとは

飼い主様がワンちゃんの痒みの程度を0～10の数値で評価する方法です。過去24時間の観察に基づいて評価します。

スコア	痒みの程度	行動の特徴
0-2	正常～非常に軽度	ほとんど搔かない、正常な行動
3-5	軽度～中等度	時々搔く、軽い不快感
6-8	中等度～重度	頻繁に搔く、明らかな不快感
9-10	極めて重度	絶え間なく搔く、睡眠や食事に影響

治療効果の判定基準

- 治療成功：ベースラインから50%以上の改善 または 2ポイント以上の低下^[4,5]
- 臨床的寛解：PVAS <2 (健康なワンちゃんと同程度) ^[4]

CADESI-04 (Canine Atopic Dermatitis Extent and Severity Index) - 皮膚病変評価

CADESI-04とは

獣医師がワンちゃんの全身40箇所の皮膚病変を客観的に評価する標準化されたシステムです。

評価項目（各部位で0-3点）

- 紅斑：皮膚の赤み（急性炎症の指標）
- 苔癬化：皮膚の肥厚（慢性炎症の指標）
- 擦過傷：掻き傷（痒みの客観的指標）

最高スコア：360点（3項目 × 40部位 × 3点）

重症度分類	スコア範囲	病態
正常	0-9	健康な皮膚
軽度	10-34	軽微な皮膚症状
中等度	35-59	明らかな皮膚症状
重度	60以上	重篤な皮膚症状

治療効果の判定基準

- 治療成功：ベースラインから50%以上の改善 [\[5,6\]](#)
- 臨床的寛解：CADESI-04 <10 [\[4\]](#)

A. オクラシチニブ (Apoquel®)

作用機序

JAK (ヤヌスキナーゼ) 阻害薬として、痒みや炎症を引き起こす複数のサイトカインの働きを選択的に阻害します。

治療効果

PVAS改善率:  60-83% (28日時点) [4,6,7]





CADESI改善率:  58.7% (14日時点) [7]

効果発現:  投与開始から24時間以内 [6,7]

投与方法

- 初回14日間：0.4-0.6mg/kg、1日2回
- その後：0.4-0.6mg/kg、1日1回
- 食事の有無に関わらず投与可能

特徴

-  速効性 (24時間以内に効果発現)
-  高い有効性
-  投与量減少時に痒みの「リバウンド」が起こることがある (45%の症例) [2]
-  長期投与時のモニタリングが推奨

B. イルノシチニブ（新薬）

作用機序

新世代JAK阻害薬として、JAK1、JAK2、TYK2を高い選択性で阻害します。半減期約5時間。

治療効果

PVAS改善率:  68.2% (28日時点) [4]






CADESI改善率:  73.2% (28日時点) [4]

臨床的寛解率:  77% (112日時点、PVAS<2) [4]

投与方法

- 0.6-0.8mg/kg、1日1回（一定投与）
- 食事の有無に関わらず投与可能

特徴

-  一日一回投与で安定した効果
-  オクラシチニブより高い改善率
-  リバウンド現象が少ない
-  より多くの症例で臨床的寛解を達成
-  新薬のため長期安全性データが限定的

C. シクロスポリン (Atopica®)

作用機序

カルシニューリン阻害薬として、T細胞の活性化を抑制し、炎症性サイトカインの産生を阻害します。

治療効果

PVAS改善率:  78% (6週時点) [3]






CADESI改善率:  58% (6週時点) [3]

効果発現:  4-6週間 [7,8]

投与方法

- 5mg/kg、1日1回（空腹時）
- 効果に応じて減量可能
- 食事の2時間前後は投与を避ける

特徴

-  長期使用実績（2002年承認）
-  プレドニゾロンと同等の効果 [3]
-  二次感染を減少させる効果 [8]
-  効果発現まで4-6週間必要
-  消化器症状が比較的多い

D. プレドニゾン

⚡ 作用機序

合成グルココルチコイドとして、広範囲な抗炎症・免疫抑制作用を示します。

📈 治療効果

PVAS改善率:  81% (6週時点) [3]






CADESI改善率:  69% (6週時点) [3]

効果発現:  数時間～24時間 [2]

投与方法

- 0.5-1.0mg/kg、1日1-2回
- 効果確認後、漸減して最小有効量に調整

特徴

-  速効性
 -  高い抗炎症効果
 -  比較的安価
 -  長期使用時の副作用リスク
 -  全身への影響が強い
-

E1. オクラシチニブ + プレドニゾロン短期併用

投与プロトコル

- オクラシチニブ：0.4-0.6mg/kg（2週間1日2回→1日1回）
- プレドニゾロン：0.5mg/kg、1日2回（最初の4日間のみ） [2]

効果

- 痒みのリバウンド率：15%（単独療法では45%） [2]
- PVAS・CADESIスコアが単独療法より有意に改善
- 副作用は軽微で一過性

E3. オクラシチニブ + PCSO-524

投与プロトコル

- PCSO-524：体重10kgあたり1カプセル（42日間）[\[5\]](#)
- オクラシチニブ：標準プロトコル

効果

- リバウンド効果の抑制
- PVAS・CADESIスコア有意改善
- 経表皮水分損失（TEWL）改善
- 副作用報告なし

5. 副作用と安全性

各治療法の副作用プロファイル

治療法	主な副作用	発生頻度	重篤度	対処法
オクラシチニブ	消化器症状 軽度血球減少	10-15% ^[6,7]	軽度	症状観察 定期検査
イルノシチニブ	消化器症状 軽度血球減少	13.6% ^[4]	軽度	症状観察 定期検査
シクロスポリン	嘔吐・下痢 歯肉肥大 多毛	55% ^[8]	軽度-中等度	用量調整 症状管理
プレドニゾロン	多飲多尿 多食 感染リスク	60-80%	中等度-重度	漸減 最小有効量
PUFA併用	軽度鼓腸	1例のみ ^[1]	軽度	自然軽快

モニタリングの推奨

定期検査スケジュール

- 治療開始前：全血球計算、生化学検査、尿検査
- 治療開始後1ヶ月：全血球計算、生化学検査
- その後：3-6ヶ月ごとに定期検査^[4,6]